

平成 28 年度東京都英語教育推進地域事業

小学校英語の授業づくりのための
ガイドライン

Guidelines
for teaching English
in elementary schools

平成 29 年 3 月

福生市教育委員会

はじめに

ますます加速するグローバル化や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催など、我が国の現在は、まさに外国語の習得が必須の時代であると言ってもいいでしょう。その中でも英語は、現在、世界に数千もの言語があると言われていた中で、最も国際共通語にふさわしい地位にあると言えます。我が国においても、母国語である日本語や日本文化を大切にしながら、必要に応じて英語によるコミュニケーションによって世界に伍することができる、真の意味でのグローバル人材を育成することは喫緊の課題です。

折しも今春、学習指導要領改訂の時期を迎えました。英語教育も、小学校英語授業の教科化、小学校第3学年からの英語教育、それらに伴う中学校英語科の在り方などの大きな変革を求められています。とりわけ小学校においては、新しい教科としての英語科の導入という一大転換期を迎えており、多くの先生方が不安を感じていることと思います。しかし、過度に恐れる必要はありません。なぜなら、小学校には今日まで外国語活動で積み上げてきた先生方の英語指導法のノウハウがあるからです。もちろん今までの外国語活動と教科としての英語科には違いがあります。しかし英語の指導という点では共通する部分の方が多いと考えられます。

これからの新しい時代にふさわしい英語教育を実現するためには、これまで積み上げてきた外国語活動における指導法を活かしていくことが最善、最短の方法です。本冊子「小学校英語の授業づくりのためのガイドライン」は福生市の小学校教員が日々指導を行っている、小学校における福生型の英語指導のフォーマットです。ここには英語教育の指導に必要な事項が十分な形で盛り込まれています。その点ではどの教員でも本ガイドラインに従って、今日からでも早速授業ができる非常に汎用性の高いものとなっています。各学校の担当教員におきましては、本ガイドラインを活用することで、現在、変革期の小学校英語の授業においても、自信をもって指導に当たっていただきますようお願いいたします。

結びとなりますが、本冊子は東京都英語教育推進地域事業として作成したものです。作成に当たり、東京都教育庁指導部義務教育指導課に御指導をいただきましたことを感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

福 生 市 教 育 委 員 会

目 次

はじめに

第1章 一単位時間の基本構成

I	一単位時間の展開例（第6学年外国語活動）	1
II	授業の基本的な流れ	2
III	目標の設定	3

第2章 授業を構成する諸活動

I	あいさつ (Greetings)	5
1	なぜ英語であいさつをするのか	5
2	活動例	5
II	スモール・トーク (Small Talk)	6
1	なぜスモール・トークをするのか	6
2	活動例	6
III	フォニックス (Phonics)	7
IV	文字指導 (Writing)	8
V	前時の復習 (Review)	8
1	なぜ復習をするのか	8
2	活動例	9
VI	歌 (Songs)	9
VII	チャンツ (Chants)	10
VIII	アクティビティ (Activity)	11
1	アクティビティ1とは	11
2	活動例 (カルタ)	11
3	アクティビティ1～単語習得ゲーム～	12
4	アクティビティ2とは	13
5	活動例 (インタビュー)	13
6	アクティビティ2～会話習得ゲーム～	14
IX	振り返り (Consolidation)	15
1	なぜ振り返りをするのか	15
2	活動例	16

第3章 チーム・ティーチングの考え方

I	チームの構成と役割	17
1	T1の役割	17
2	T2の役割	18
II	外国人指導助手 (ALT) の活用	18
1	授業内での活用	18
2	授業外での活用	19

第1章 一単位時間の基本構成

I 一単位時間の展開例（第6学年外国語活動）

ねらい できるかどうかをたずねたり、「できる」「できない」と答えたりできるようにする。

本時の流れ

	活動	HRT	ALT	留意点	評価
導入	あいさつ スモール・ トーク	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつをする。 ・調子、曜日、日付、天気聞く。 			
	フォニックス	・「C」のワークシートに取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・A～Zまでのリピートをさせる。 ・単語を確認する。 	・フォニックス音を口に出させるようにする。	<観察>
展開	ウォーム・アップ	・Who took the cookie from the cookie jar ゲームをする。			
	ニュー・フレーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT とリピートをさせ練習をさせる。 ・ラップリズムで、Can you ～？ / Yes, I can. No, I can't.に慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクチャー・カードで単語を復習する。 ・Can you ～？ / Yes, I can. No, I can't.をリピートさせる。 	・リピートしたり、リズムに乗せたりしながら、しっかり声をさせる。	
	アクティビティ1 「〇小先生クイズ」	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルーム・イングリッシュを使って進行する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①画面に映っている先生に、全員で Can you ～？と聞かせていく。</p> <p>②先生の答えが Yes, I can. / No, I can't.なのか予想させ、教室を Yes, No の半分に分けて、教室内を移動させる。</p> <p>③先生の数だけ、以上のことを繰り返す。</p> </div>	・Can you ～？をリピートさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションを見せて、ルールを示す。 ・必ず全員で声を出すようにさせる。 	
	アクティビティ2 「なりきりインタビュー」	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルーム・イングリッシュを使って進行する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①一人に一枚カードを渡し、その人になりきらせる。</p> <p>②Can you ～？と聞きインタビューをしながら、ワークシートを埋めさせる。</p> <p>③最後に答えを全体で共有させる。</p> </div>	・HRT とデモンストレーションを見せる。	・デモンストレーションを見せて、ルールを示す。	<観察・記録>
まとめ	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてが達成できたか、振り返らせ、カードを書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使ってコミュニケーションを取れたことを褒める。 		<振り返りカード>

Ⅱ 授業の基本的な流れ

あいさつ、スモール・トーク P.5

Hello. や Good morning! 等のあいさつで、元気よく授業を始め、英語の授業の雰囲気切り替えます。学年に応じて How are you?、 How is the weather today?、 What day is it today?、 What date is it today? 等の会話のやり取りをしながら、ウォーミング・アップをさせます。授業のはじめに毎回同じ質問をすることで、児童は自然と英語に慣れ親しむことができます。

フォニックス P.7

単語を読めるようになるための練習を取り入れます。A～Zのピクチャー・カードでALTとアルファベットの文字の音、その音から始める単語を確認します。その後、毎授業アルファベット1、2文字分の簡単な単語を書かせることで、英語を読んだり、書いたりするためのスキルを向上させることができます。

ウォーム・アップ P.9

授業のはじめに楽しい歌を歌ったり、体を動かしたりすることで、英語の授業のウォーミング・アップにつながっていきます。

ニュー・フレーズ (ウォーム・アップやアクティビティ1の中で導入)

ピクチャー・カードを使いALTの発音を聞きながら、練習をします。ピクチャー・カードの中に、絵だけでなく文字も表記することで、文字への認識にもつなげていきます。さらに、CDを活用し、ラップのリズムに合わせてフレーズを声に出し、楽しく練習をさせます。

アクティビティ P.11

アクティビティ1とアクティビティ2との関連をもたせることで意味のある活動にすることができます。アクティビティ1は、アクティビティ2を行うための基礎として位置付けます。そうすることで、アクティビティ2において、児童がより自信をもって、児童同士でのコミュニケーション活動に取り組めるようになることが期待できます。

振り返り P.15

授業のまとめとして、授業の振り返りを行います。児童が自分の学習の姿勢や、身に付いたことなどを振り返りカードに記しながら振り返ります。また、学級担任とALTから児童に対して、本時の授業の内容や児童の様子について振り返りを行い、よかったところをほめます。よかったところをほめることで、次回への学習意欲の向上につなげることができます。

Ⅲ 目標の設定

平成 29 年 2 月 14 日に公表された「小学校学習指導要領 改訂案」には目標について以下のように示されています。次期学習指導要領下では、第 3 学年及び第 4 学年で年間 35 時間、外国語活動を行い、第 5 学年及び第 6 学年で年間 70 時間、教科としての外国語（英語）を学習します。

第 4 章 外国語活動

1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- ② 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- ③ 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

第 2 章 各教科 第 10 節 外国語

1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動及び英語科の授業を組み立てる際には、上記に示されたそれぞれ 3 点に沿って単元や一単位時間の目標を設定していかなければいけません。

「慣れ親しむ」とは、外国語に対して抵抗感を感じずに聞いたり、聞きなれた表現がやり取りの中で自然に口から出たり、知っている語彙を使って自分を表現したりするような状態のことを指しています。一方、「技能」とは英語を使用するための技術的な能力のことをいいます。

以下に、外国語活動と英語科の目標を対照します。指導に当たっては、外国語活動から英語科に緩やかに接続することに配慮する必要があります。

	外国語活動	英語科
①	体験的に理解を深める	基礎的な技能を身に付ける
	音声や基本的な表現に慣れ親しむ	音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて理解する
②	身近で簡単な事柄について	
	聞いたり話したりする	聞いたり話したりするとともに、推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりする
	自分の考えや気持ちなどを伝え合う	
③	言語やその背景にある文化に対する理解を深める	
	主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う	

外国語活動と英語科の最も大きな違いは、文字言語の取り扱いです。外国語活動では、原則的に文字言語は扱わず、音声によるコミュニケーションを行います。一方、英語科では、それに加えて、今までは中学校英語科で扱っていた、「読むこと」「書くこと」の文字言語や文構造、言語の働きなどについて理解することも目標となります。しかしこのことは、中学校英語科の指導を単に前倒しするというのではなく、第4学年までの外国語活動での指導を踏まえて、小学生の発達段階に適した方法で指導を行う必要があります。

第2章 授業を構成する諸活動

I あいさつ (Greetings)

1 なぜ英語であいさつをするのか

英語の授業をする上で最も大切なポイントは、授業の初めの第一声です。教師が明るく「Hello!」とあいさつをすることで、今から英語の授業が始まるよという雰囲気をつくることができます。「この一時間はたくさん英語を使おうね」という気持ちを込めて、あいさつをするといいでしょ。

英語でのあいさつは、一日中使える「Hello.」が最も簡単です。「Hello song」と合わせて指導することもできます。他にも、午前の授業なら「Good morning.」、午後の授業なら「Good afternoon.」と、時間帯に応じて教師があいさつをすることで、児童は自然と表現に慣れ親しんでいきます。

2 活動例

①日直のあいさつから始まる場合

C: これから、〇時間目の授業をはじめます。よろしくお願いします。

T&C: よろしくお願ひします。

T: Hello(, everyone)!

C: Hello(,〇〇sensei and 〇〇sensei)!

T: Let's start our English class!

C: Yeah!

日本語で「〇〇先生」と言っても構いません。しかし、より英語圏の文化に慣れ親しませたい場合は、男性なら「Mr. (苗字)」女性なら「Ms. (苗字)」ということの説明をあげましょう。いつも大きな声で元気よくあいさつできるように英語の授業ではどのようにあいさつをするのかクラスでルールを決めておくといいですね。

②日直にも英語であいさつをさせたい場合

C: Stand up, please.

T: Hello, everyone!

C: Hello, Mr.〇〇 and Ms.〇〇!

T: How are you today?

C: I'm fine, thank you, and you?

T: I'm fine, too, thank you. OK. Sit down, please.

英語の時間は日直にも英語であいさつをさせたいという場合、日直に「Stand up, please.」と言わせるのはどうでしょう。日本語の「これから授業をはじめます」という表現に近いのは「Let's start our English class.」ですが、慣れていなかったり声が小さかったりすると、あいさつの意味を成さないことがあります。「Stand up, please.」なら、起立という動作を伴うので、わかりやすい授業開始の合図になります。全員の起立を確認したら、教師の声で「Hello!」と呼びかけます。

Ⅱ スモール・トーク (Small Talk)

1 なぜスモール・トークをするのか

スモール・トークとは、学級担任とALT、ALTと児童、学級担任と児童とでちょっとした世間話を英語で行うことです。スモール・トークをするねらいは、児童に実際の英語による会話を聞く機会を与えること、「英語が聞き取れた」という体験を積ませること、そして英語で会話ができるときに、達成感を味わわせることです。

この時の大切なポイントは、子どもでも推測、理解できるような内容を取り上げることです。例えば、「今朝食べたもの」や「昨日観たテレビ番組」、「筆箱や衣服などのキャラクター」について尋ねるなどです。内容によっては本時のねらいにつなげたり、今までの学習の復習をしたりすることができます。

2 活動例

① 基本的なスモール・トーク (天気・曜日・月日)

T : How's the weather today ?	C : It's ~ .
T : What day is it today ?	C : It's ~ .
T : What's the date today ?	C : It's ~ .

② 今朝食べたものについてのスモール・トーク

T : 今から先生たちが英語である会話をしてみます。どんな話をしているのか聞き取りましょう。

T : Hi, ○○sensei.	A : Hi, ○○sensei.
T : This morning, I ate natto. What did you eat this morning?	A : I ate a banana this morning.
T : Do you like bananas?	A : Yes, I do. I like bananas very much.
T : Thank you, ○○sensei.	

T: どんな話をしているか分かりましたか。
 C: 食べ物のお話です。
 T: That's right! 先生は何を食べたのですか。
 C: 納豆です。
 T: Yes! ○○先生は何を食べたのですか。
 C: バナナです。
 T: Yes! いつ食べたのか分かりましたか。
 C: 今日の朝です。
 T: Great! みんなは今朝何を食べましたか? ○○先生の質問に答えてみましょう。
 A: What did you eat this morning?
 C: 卵焼きです。

ここでは過去形というやや難しい文構造を扱っていますが、文構造に焦点を当てるのではなく、どのような会話がなされたのかという意味に意識を向けるようにします。このように意味をとりやすい会話については、あまり文構造の難易度にとらわれずに取り扱うことで、理解の幅を拡げることができます。

③ 児童の持ち物（筆箱や衣服）にあるキャラクターについて尋ねるスモール・トーク

T: What's this ?	C: It's ○○.
T: Do you like ○○?	C: Yes, I do.
T: Why do you like ○○?	C: Because ○○ is very cute.

Ⅲ フォニックス (Phonics)

日本語の場合、ひらがなやカタカナの文字の読み方と実際に発音される音はほぼ同じなので、「あいうえお・・・」「アイウエオ・・・」を覚えることができれば、大抵の文字を読むことができます。

一方、英語の場合は文字の読み方と実際に発音される音が異なるので、アルファベット26文字の読み方を覚えることができて、すぐに英語を発音することはできません。例えば、“box” の場合、“b” のアルファベットの読み方は「ビー」ですが、読むときは「ブッ」など、「ビー」とは異なった読み方になります。

このようにフォニックスとは、一つのアルファベットに対して複数の音が対応する英語の複雑な音の体系を、発音と文字の関係性からルールとして明らかにする学習法で、もともとはネイティブ・スピーカーの子どもたちに読み書きを教えるために開発されたものです。

こうしたルールを習得していくことで、英語の読み書きのスキルの向上につながり、文字を見て英語を正しく発音することができるようになります。

IV 文字指導（Writing）

平成 29 年 2 月 14 日に公表された「小学校学習指導要領 改訂案」では、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加えることになります。その際、新たに①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、③語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行います。

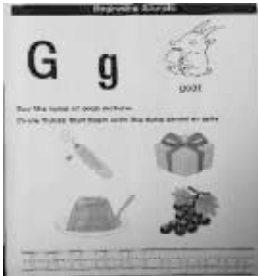
高学年における指導	現行学習指導要領	次期学習指導要領
「聞くこと」	慣れ親しみ	「聞くこと」「話すこと」
「話すこと」	慣れ親しみ	の活動に加え、
「読むこと」	（なし）	「読むこと」「書くこと」
「書くこと」	（なし）	を含めた言語活動を展開

具体的には、以下のような流れで、高学年の授業の前半 5 分間を活用し、フォニックス・文字指導の時間を取り入れることができます。



←ピクチャーカード例

- ① ピクチャーカードを使用しながら A～Z の音と、その音から始まる単語をリズムよく Listen and repeat させる。



- ② ワークシートに取り組ませる。

ワークシートには、単語の練習や、4 本線の中に文字を正しく書く練習が取り入れられている。

←ワークシート例

V 前時の復習（Review）

1 なぜ復習をするのか

授業の導入は、児童にとって「楽しいこと」や「できること」で組み立てます。そうすることで児童の学習意欲を高めることができます。

前時に取り上げた単語を児童に見せ、それを英語で言わせるだけでも児童をほめるきっかけをつくることができます。また、前時に学習した表現を確認し、友達と会話させるだけでもよいウォーミング・アップになります。

時数の限られた英語の授業では、せっかく学習したこともあまり使うことがないのですぐに忘れてしまいがちです。意図的に復習時間を設定することで、児童の定着も図ることができます。

2 活動例

(1) 既習事項をランダムに復習させたい場合

クラスみんなで一つの質問をし、前に立っている児童が答えるというやり方です。一人が一つ答えたら次の児童が前に立ちます。

T : 野球ができるか聞いてみよう。Can you play ~? One, two.

C : Can you play baseball?

C1 : Yes, I can.

慣れるまでは、上記のように教師が言ったことをリピートさせます。

絵や画像を見せるだけで、「これは How are you?かな」「これは Can you ~?だな」「これは Do you like ~?かもしれない」と児童だけで判断できるようになると、さらに効果的な復習タイムになります。

(2) 前時の会話文を復習させたい場合

T : Let's review. (復習をしましょう。)

Look at us. (先生達を見てください。)

Ready, action! (ようい、スタート。)

A : Hello!

B : Hello!

A : Can you play baseball?

B : Yes, I can.

Can you play basketball?

A : No, I can't.

A : Bye!

B : Bye!

T : OK? (分かりましたか。思い出しましたか。)

Please talk with 3 friends. (3人の友達と会話をします。)

When you finish, sit down. (終わったら座ります。)

Are you ready? (準備はいいですか。)

C : Yes!

T : OK. Ready, go! (それでは、用意、スタート。)

二重囲みの中に前時の会話表現を入れるだけで、以降、同じ流れで復習ができます。

VI 歌 (Songs)

英語の授業の中では、新しい単語やフレーズを覚える時間がたくさんあります。ただ繰り返し単語やフレーズを言うだけでは楽しく学ぶことができません。そこで、歌やチャンツを使いながら繰り返し単語やフレーズを発音することで、楽しく覚えることができます。また、歌やチャンツを使うことで、外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむことができます。

歌は、単語を学んだ後に定着を図るためにも使えますが、授業の開始時にも使うことができます。例えば、一度“Hello song”を学んだら、次の授業からはあいさつとして授業の始めに歌うこともできます。

歌を活用することで、リズムに合わせて楽しく単語を身に付けることができます。

他にも、「外国語の授業が始まるんだ」と児童がワクワクするように、子ども向けの歌を授業開始前に流すことも効果的です。楽しい気持ちで、児童が前向きに英語の学習に取り組めるような雰囲気づくりにも、歌を活用することができます。

【活動例】

学習内容：あいさつ

学ぶ表現：Hello. How are you?

使う歌：Hello song

Ⅶ チャンツ (Chants)

チャンツとは、単語や文をリズムや音楽に合わせて表現する活動です。一定のリズムに合わせて発音するために、英語のアクセントやイントネーションを自然な形で身に付けることができます。またチャンツには、繰り返しているうちに自然に口ずさめるようになり、いつの間にか表現を覚えてしまっているという効果もあります。

チャンツは、単純な単語を覚える時にも効果的ですが、長い文を覚える時にも有効です。手拍子をしながら練習をすることで、リズムよく文も言えるようになります。また、英語の文の区切りも意識することができます。

【活動例】

Hi, friends! 1

学習内容：How many?

学ぶ単語や表現：“How many” “One ~ Twenty”

使うチャンツ：Hi, friends! 1 12 ページ

Dogs, dogs, how many dogs?

One, two, three, four, five dogs.

Ⅷ アクティビティ (Activities)

本ガイドラインでは、アクティビティを大きく2つに分けて考えています。ここではそれぞれのアクティビティを、「アクティビティ1」「アクティビティ2」と呼ぶこととします。

1 アクティビティ1とは

新出単語や新出表現を何度も反復し、自然に聞いたり話したりできるようになることをねらった活動です。ここでは、本時で扱う単語や表現に慣れ親しむために、どのように音声を聞かせ、発音させるかに重点を置いて考えます。

アクティビティ1は、正しく発音できるようになるために、教師の後に続いて繰り返し発音するなど、機械的な練習・活動が含まれます。以下の活動例では、ゲーム的要素を取り入れた練習の仕方をご紹介します。

2 活動例「カルタ」

カルタのルールを少しずつ追加していくことで、児童は自然に反復練習をすることができます。しかし、カードをとることだけに必死になりすぎると発音の練習になりません。きちんと声に出して練習しているか、児童の様子を見ながら進めていきます。

(1) 新出単語の音声・発音に慣れ親しむ活動

<指導のステップ>

ア 教師が言った単語のカードをとる

イ 単語が聞き取れるようになってきたら、教師が言った言葉をリピートしてからとる

※いきなりイを行うと、十分にリピートができずにカードをとるだけの活動になってしまいます。アを最初に行って、インプットを十分にさせてあげると、安心して次の活動に取り組むことができます。

(2) 会話の表現に慣れ親しむ活動

<指導のステップ>

ア 教師がAを言い、児童もAを繰り返す

イ Aを繰り返して、リズムよく言わせる

ウ 教師が突然Bを言ったら、児童はそのカードをとり、Bを言う。

エ Aの言い方に慣れたら、児童にAを言わせ、教師がBを言ったら、児童はそのカードをとる

オ AもBも言えるようになったら、班の中でできるように指導する

(例)

A : What color do you like?

B : I like ~.

<班の中だけで行う時のルール>

- ア 全体でやった時のように、教師役を班の中で一人決める
- イ A を児童間で交互に言い合い、突然 B を言う
- ウ カードを取れた児童が、次の教師役となり、同じように進める

【カルタ指導で使える英語表現】

Make groups. (班をつくります。)

Spread your cards. (カードを広げます。)

Collect your cards. (カードを集めます。)

Move your desks back. (机を元に戻します。)

3 アクティビティ1～単語習得ゲーム～

(1) 伝言ゲーム

- ① 教室の座席1列を1チームとして行う。
- ② 一番後ろの児童が、教師のところに集まり、単語を聞く。
- ③ 一番後ろの児童が、一つ前の児童にその単語を伝える。
- ④ 先頭の児童は黒板前に立ち、伝わってきた単語を言う。

(2) 神経衰弱

- ① 班で座らせる。
- ② 児童用カードを2組配布し、裏向きで机の上に広げる。
- ③ 順番を決め、1人がカードをめくる。
- ④ 出た単語を声に出して言う。(めくった児童が言う。または、班全員で言う。)
- ⑤ 2枚カードをめくり、同じカードが出たらもらうことができる。

(3) カルタ

- ① 班で座らせる。
- ② 児童用カードを表向きで机の上に広げる。
- ③ 教師が言った単語をカードから見つけ、素早くとる。
- ④ とったカードを挙げ、単語を言う。

(4) ミッシング・ゲーム

- ① 教師用フラッシュカードを5～10枚程度黒板に貼る。
- ② 児童に目を閉じさせ、フラッシュカードを1枚はずす(慣れたら2～4枚)。黒板のフラッシュカードの順番も入れ替えておく。
- ③ "What's missing?"と聞き、児童ははずされたカードを当てる。

(5) フルーツ・バスケット

- ① 児童数より1個少ない椅子を円の形に並べる。
- ② 単語を児童に割り当てる。
- ③ オニを1人決め、その児童が割り当てられた単語を言う。
- ④ 同じ単語を割り当てられた児童は椅子から立ち、空いている椅子に移動する。

(6) キーワード・ゲーム

- ① 2人組になり、真ん中に消しゴムを置く。
- ② 教師用フラッシュカードを5～10枚程度黒板に貼り、キーワードを決める。
- ③ 担任が任意の単語を言い、児童も続けて同じように繰り返す。
- ④ 担任がキーワードを言ったら、児童は素早く消しゴムを取る。

(7) ドンジャンケン

- ① フラッシュカードを横一列に並べる。(机の上、または黒板)
- ② 児童を2組に分け、カードの左右の端に一列に並ばせる。
- ③ "Ready, go."の合図で、単語を言いながら進んでいき、相手と出会ったところでジャンケンをする。
- ④ 勝った児童はそのまま進み、負けたチームは次の児童がスタートする。
- ⑤ どちらかが、相手エリアの一番端の単語に辿り着いたら、そのチームの勝ち。

4 アクティビティ2とは

アクティビティ1で扱った単語や表現を、実際の会話場面に近づけて使ってみるといいう活動です。インタビュー等の活動を通して、「英語で会話できた」という実感を児童にもたせることがねらいです。ですから、どのような方法でコミュニケーションをとらせるかに重点を置いて考えます。

さらに、習った単語だけでなく、「こんなことも言ってみよう」という児童の思いを引き出すことで、表現が豊かになったり、児童の関心を高めたりすることができます。

5 活動例「インタビュー」

インタビュー活動にも様々なやり方があります。ちょっとした工夫をするだけで、友達と会話をする必然性が生まれます。

(1) インタビュー

- ア 集計用紙を持って友達にインタビューをしに行く
イ インタビューした友達の名前と、答えを記入する

集計用紙に記入することで、自分が何人と会話することができたか記録として残すことができます。単純に、5人以上と会話をしようというように、人数の目標を設定して活動を行うことができます。

また、何のためのインタビューなのかを明確にするだけで会話の必然性が生まれます。例えば、例の会話表現を使えば、インタビュー結果を集計すると、クラスで人気のある色を調べることができます。

(例)

A : What color do you like?

B : I like ~.

Lesson5-3					
A : What - do you like?					NAME
B : I like ~.					
No.	NAME	city	animal	spot	fruit
1					
2					
3					
4					

(2) インタビュー・ビンゴ

- ア ビンゴ用紙を配る
- イ ビンゴ用紙のマスに色を塗らせる（例の表現の場合）
- ウ 友達にインタビューをし、答えてもらった色をチェックさせる
- エ ビンゴを目指してインタビューを続けさせる

インタビューとビンゴを掛け合わせることで、児童の会話に対する意欲を高めることが期待できます。例では色を扱っていますが、他の単語・表現でもインタビュー・ビンゴができます。

☆ 他にも、「長く会話をさせる」という活動もできます。以下は Hi, friends!1 の内容で会話を組み立てたものです。質問が若干唐突ではありますが、学習したことをつなげていくだけでも英語で会話をする練習になります。

A : Hello.	B : Hello.
A : My name is ~. What's your name?	B : My name is ~.
A : Nice to meet you.	B : Nice to meet you, too.
A : What color do you like?	B : I like ~. What color do you like?
A : I like ~.	B : Thank you. Bye.



6 アクティビティ2～会話習得ゲーム～

(1) スウィッチング・カード

- ① 児童用カードを1人1枚配る。
 - ② Hello.で話しかけ、本時の表現を用いて自分が持っているカードについて話す。
 - ③ 相手も同じように話す。
 - ④ カードを交換（switch）し、Bye.と言って次のパートナーを探す。
- ★ What's this? / Do you like ~? / Can you ~? など、何にでも使える。

(2) インタビュー

- ① Hi, friends!に直接書き込むか、ワークシートを配る。
 - ② 児童はそれらを手掛かりに、たくさんの友達に話しかける。
 - ③ Hello.で話しかけ、Bye.で終わる。
- ★ (1)に比べ、ワークシートに記述するので、何人と会話したかが明確になる。

(3) Who am I? (「わたしは誰でしょうクイズ」) (2)の後に行うことが多い。

- ① 教師は児童からあらかじめ情報を得て、その児童のヒントを言っていく。
 - ② 児童は教師のヒントを聞きながら、誰のことなのか推測する。
 - ③ 教師が Who am I?と尋ね、児童が答えを言う。
- ★ What ~ do you like?など、相手を知ることができる質問だとよりおもしろい。

(4) ランキング作り ((2) の応用)

① 好きなキャラクターや行きたい国など、何のランキングを作るのか決める。

② グループごとに担当を決め、会話をする。

★ クラスの傾向を知ることができる。(2) より会話をする必然性が生まれる。

(5) インフォメーション・ギャップ

① 教室を半分 (A, B) に分け、それぞれに別のワークシートを配る。

② ワークシートにはそれぞれ異なった空欄があり、A の児童は B の児童と会話をすることで答えが分かる。

★ 道案内など、やり方によっていろいろな会話に応用できる。また、A は男子、B は女子というように意図的に配布することで、普段会話しない友達と会話をさせるよい機会にもなる。

(6) ロール・プレイング

以下の例のようなお客さんと店員さんのやりとりの場合は、役割を決めて会話をさせる。買い物など、実際に体験ができるように活動を計画すると活発に会話ができる。

例) ・お店屋さんで買い物 How much ~ ?

・レストランで注文 What would you like?

・旅行会社で旅の計画 Where do you want to go?

IX 振り返り (Consolidation)

1 なぜ振り返りをするのか

学習指導要領総則に「各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」とあります。学習したことを振り返り、内容を確認することで理解が深まります。また、できたこと、わかったことが増えることで学習に対する達成感、次時への意欲が高まると考えられます。

教師にとっても振り返りは、重要です。毎時間の授業を振り返ることで、教師は児童の理解度をはかったり、次時の学習の見通しを立てたりすることができます。

2 活動例

授業で学習したキーセンテンスやキーフレーズ、キーワードの再確認をします。これらを練習した歌をもう一度歌ったり、リズムに合わせて言ったりすることで、学習の振り返りや学習の定着を目指します。

振り返りカードを用い、時間を確保して振り返りを行います。いろいろな振り返りカードが考えられますが、めあてを踏まえた振り返りができるよう支援します。

ふりかえりカード				
name ()				
～今日のBEST～(数字に○をしましょう。)				
B	Big Voice! 大きなこえで	1	2	3 4
よくできた！ 実演発表 発表日 評価		Ver: good Good Not good Bad.		
E	Eye Contact! 目を見て	1	2	3 4
よくできた！ 実演発表 発表日 評価		Ver: good Good Not good Bad.		
S	Smile! えがおで	1	2	3 4
よくできた！ 実演発表 発表日 評価		Ver: good Good Not good Bad.		
T	Try! まづんで	1	2	3 4
よくできた！ 実演発表 発表日 評価		Ver: good Good Not good Bad.		
<感想>バリエーションになったこと、がんばったこと、楽しかったこと など自由 _____ _____ _____				

ふりかえりカード	★あてはまるところに○をし、感想を書きましょう。★				名前()
	1 /、	2 /、	3 /、	4 /、	
正確な音にチャレンジ できましたか。..	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	
歌詞で話すことが できましたか。..	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	
空想手に関するやり方で 学ぶことができたか。..	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	
登場人物、 場面が分かったか。..	0~2人 3~4人 5人以上	0~2人 3~4人 5人以上	0~2人 3~4人 5人以上	0~2人 3~4人 5人以上	
登場人物の感情を わかったか。..	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	△ ○ ◎	
登場人物の感情を 書けましたか。..					
わかったこと。..					
書けましたこと。..					
できるよになったこと。..					
など					

第3章 チーム・ティーチングの考え方

I チームの構成と役割

小学校の英語の授業では、どの学年においても複数の教員で指導を行うこともありえます。例えば、学級担任の英語力を補う形でもう1名、英語に堪能な指導者が指導に当たる場合、授業におけるそれぞれの役割を明確にしておく必要があります。ここではチーム・ティーチングを行う場合について、授業を進行し、主として指導に当たる教員をティーチャー1（T1）、ティーチャー1を補助することにより、授業に参加する教員をティーチャー2（T2）とし、それぞれの役割について説明します。

1 T1の役割

T1は原則として学級担任が務めます。T1の主たる役割は以下の通りです。

- (1) 本時の目標を明確にして授業案を作成する。
- (2) 本時の授業の評価の計画を立てる。
- (3) (1) 及び (2) について事前にT2とミーティングを行い、内容を共有する。
- (4) 授業を進行する。必要に応じてT2に指示を出す。

学級担任の多くは自身の英語力に関する不安から、T2（「外国人指導助手（ALT）」や英語の堪能な地域人材等）に授業を任せてしまう傾向が少なからずあります。しかし、学級の児童のことを最も理解し、心理的にも児童に安心感を与えられる学級担任が授業のイニシアチブを取るのは当然のことです。特に(1)及び(2)の段階は、決して他人には任せられない大切な学級担任の役割であるということを忘れてはなりません。学習指導案の作成、評価計画、使用教材の準備等は、東京都英語教育推進リーダーが積極的に支援していますので、活用することも大切です。

英語運用力に自信がなく、授業の進行ができないと考える必要はありません。まずは日本語でも授業の進行をしっかりと行うことが大切です。その中で少しずつ、児童への指示を簡単なクラスルーム・イングリッシュ（例：Stand up.、Look at me.、Listen and repeat, please.など）で行ったり、アクティビティの前にT2とデモンストレーションをしてみせたりして、授業に積極的に関与するようにします。

T1の重要な役割に評価があります。特に高学年においては英語が教科化されることもあり、児童の実態、理解や習熟の程度などを客観的に評価し、児童にフィードバックするとともに、学級担任自身もその評価を次時の授業に活かしていくことが必要です。

2 T2の役割

英語の授業では、学級担任の英語力を補助するために、ALTや英語に堪能な地域人材をT2とすることがよくあります。こうした人材を英語が堪能であるという理由だけでT1とすることはできません。あくまでもT1である学級担任の授業計画に基づいて指導を行います。もちろん授業の中で高い英語の運用力が求められる場面においてT1の指示のもとで中心的な役割を担うことは十分に考えられます。必ず授業前にT1とミーティングを行い、授業のどの部分でT2がイニシアチブを握るのかを確認しておきます。場合によっては1つのアクティビティをすべてT2に任せることもあるかもしれません。（例えば、ある行事に関してALTの母国について話してもらい、児童が聞く活動などはほとんどT1が関与する場面はないかもしれません。）そのような場合でも決して思いつきでT2に任せてしまうのではなく、あくまでも事前のミーティングで確認した計画に基づいて授業を進行することが大切です。

Ⅱ 外国人指導助手（ALT）の活用

ALTは、チーム・ティーチングにおけるT2として最も適した存在であると考えられます。ALTは外国語の習得はもとより、異文化理解の貴重な機会を提供してくれます。ALTをどのように活用できるのかが、小学校における英語の授業の充実にとって大きな鍵の一つになると考えられます。

1 授業内での活用

ALTは日本人指導者には難しい英語の音声もきれいに発音することができるため、授業における活用の中心は自ずと音声のモデルを示してもらうこととなります。しかし単に音声のモデルというだけならば、CDでも代用ができます。ALTを活用するに当たっては、双方向的な活動となるように、児童との英語によるやりとり(interaction)を授業展開の中に位置付けることが必要です。Interaction と言うととても高いレベルの活動をイメージしがちですが、児童の学習の段階に応じて、簡単なあいさつや自己紹介から始めることができます。あまり高度なことを求めずに、最初は短いやりとりから始めてみましょう。児童にとってはたった一言のやりとりでも、自分の話した英語が通じた喜びは得がたいものとなります。最初は緊張している児童も、回数を重ねるうちに次第に慣れてきます。そこからはスモール・ステップで児童のスピーチに対して質問をってもらうなどの比較的高度な段階まで、活動を継続していきましょう。

ALTを活用できるもう一つの場面は季節のイベントや学校行事などの機会です。ALTの母国と日本では当然のことながら文化的背景が異なります。市の大きなお祭りや学校の運動会などは、児童がALTに英語で発信する絶好の機会です。また同時に、ALTの母国では同様のイベントや他に何か独自の文化があるのかを話してもら

うことで文化交流ができます。写真や民芸品など、実物教材があればお願いしてみるのもいいでしょう。

2 授業外での活用

A L T の活用の場면을授業内だけに限定してしまうのはもったいないことです。授業外で積極的に ALT を活用する方法を考えてみましょう。授業外での活動が、次回の授業のミーティングだけで終わっていないでしょうか。以下に、本市で行われている活動も含めていくつか挙げてみます。

<朝の時間>

- 校門での英語によるあいさつ運動をしてもらう
- 定期的に英語朝礼を行う

<昼の時間>

- 給食の時間に順番に各学級に入ってもらい、一緒に食事をしてもらう
- 昼の放送で英語によるディスク・ジョッキーをってもらう

<放課後の時間>

- 英語指導のための校内研修の講師をってもらう
- 教員の英語力向上のためのフリー・トーキング・スペースを開設してもらう
- 児童・生徒が自由に参加できる英会話教室を開設してもらう
- 英検などの外部検定試験の英語模擬面接をってもらう

<その他>

- ミーティングをもとに、授業で使用する教材を作成してもらう
- 英語の校内掲示物や、英語教室の整備をってもらう

このように A L T の活用を授業中という枠にとどめずに、自由な発想で、あらゆる教育活動に参加してもらうことで校内に自然な英語環境ができるのです。

平成28年度 福生市英語教育推進委員会

	役名	職名	氏名
1	委員長	福生第二中学校 校長	小出 宏
2	副委員長	福生第四小学校 校長	山本 豊彦
3	委員	福生第一小学校 教諭	樋 惇紀
4	委員	福生第二小学校 教諭	中村 麻衣
5	委員	福生第三小学校 教諭	澤谷 友貴
6	委員	福生第四小学校 主任教諭	星野 早苗
7	委員	福生第五小学校 主任教諭	玉木 脩一
8	委員	福生第六小学校 教諭	丸尾 啓子
9	委員	福生第七小学校 教諭	森下 純
10	委員	福生第一中学校 教諭	坂本 萌
11	委員	福生第二中学校 主任教諭	寺沢 陽子
12	委員	福生第三中学校 教諭	中山 恵
13	委員	教育委員会教育部参事	石田 周
14	委員	教育委員会教育部統括指導主事	林 宣之
15	委員	教育委員会教育部指導主事	森保 亮

福生市教育委員会においては、次の者が本書の作成に当たった。

石田 周	福生市教育委員会教育部参事
林 宣之	福生市教育委員会教育部主幹(統括指導主事)
千葉 かおり	福生市教育委員会教育部主幹(統括指導主事)
森保 亮	福生市教育委員会教育部教育指導課指導主事
鈴木 輝	福生市教育委員会教育部教育指導課指導主事

平成 28 年度東京都英語教育推進地域事業

小学校英語の授業づくりのためのガイドライン

平成 29 年 3 月 31 日

作 成 福生市教育委員会教育部教育指導課
福生市本町 5 番地
電話 042-551-1538

